

# ひらか 連携ニュース

当室では、急性期治療を終えた患者さんの治療を切れ目なく継続できるよう、かかりつけ医との連携を強化しています。かかりつけ医の依頼件数は、年々増加傾向となり、最近では通院困難となった外来患者さんのかかりつけ医依頼や在宅療養支援も多くなってきました。

今回は、かかりつけ医の依頼状況についてご紹介いたします。

## 地域医療機関へのかかりつけ医の依頼について

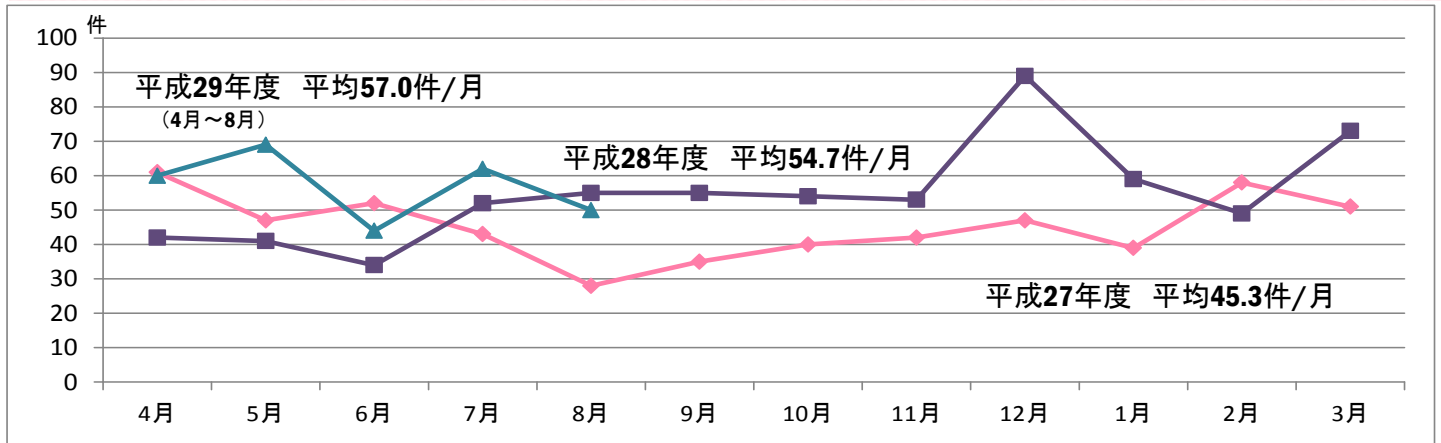


図1. かかりつけ医の依頼件数の推移

### 当室から事前に依頼するケース

#### <退院時>

1. 新規で開業医へ紹介となる場合
2. かかりつけ医へ紹介となるが、通院ではなく、訪問診療が必要となった場合
3. かかりつけ医へ通院となるが、新たに医療処置が加わった場合、また、病状が不安定な場合
4. 有料老人ホームへの入所予定となり、嘱託医への加療依頼が必要な場合 など

#### <通院時>

1. 当院の受診科と異なる科の開業医へ新規で紹介になる場合 (例: 脳神経外科→内科、外科→内科)
2. 通院が困難となり、訪問診療が必要になった場合 など

### がん終末期にある患者さんのかかりつけ医依頼について



最近、がんの終末期にある患者さんの在宅療養の相談や、かかりつけ医の依頼が増えています。

患者さんやご家族、また退院後のサポートする在宅医やケアマネージャー等、みなさんが安心して、満足のいく療養生活を過ごせるよう、連携室では以下の点について、情報を共有しています。当室へ依頼の際は、ご協力をお願いします。

- 患者さんの思い、希望や不安
- ご家族の思い、希望や不安
- 疾患や今の病状に対する医師の説明、患者さん、ご家族の理解
- 症状のコントロールができていないか
- 今後予測される問題、予後
- オピオイドや医療処置
- 家族構成と介護体制
- 介護保険・介護サービスの内容
- 訪問看護の利用(介護保険or医療保険)
- 病状悪化時、急変時の対応
- 在宅での看取りの希望 など

上記以外にも、かかりつけ医や地域の在宅療養を支援する多職種との連携が必要な際は、遠慮なくご相談ください。

